



入梅熱く

～第50回関川マラソン～

教育長 津野庄一郎

「雨の中でしたが、関川村のきれいな景色を眺めながら走れました」「沿道の皆さんの声援が温かかった」「関川村大好きです」…走り終えたランナーの声です。

6月21日に開催された第50回関川マラソン記念大会は、入梅の雨に見舞われるあいにくの天候となりました。しかし、そうした状況もかかわらず全国から参加登録者数1580名うち1300名余のランナーが、笑顔で爽やかに関川の大地を駆け抜けました。事故や怪我もなく大会を無事に終えることができましたことは、何よりの喜びであり深い安堵を覚えるところです。この成功は、関川村スポーツ協会（小池稔会長）をはじめ、関係各位が長期にわたり入念な準備を重ねてこられた成果に他なりません。教育委員会を代表して心より敬意と感謝を申し上げます。

今回の大会で特筆すべき点は、大きく二つです。第一に、世界陸上東京大会で日本初の金メダルを獲得された谷口浩美さん、東京パラリンピック銅メダリストの永田務さんをゲストランナーにお迎えし、12キロの部で力強い走りを披露していただいたことです。トップアスリートの走りは、参加者や子どもたちにとっても大きな励みとなりました。第二に、関川中学校が「関川マラソン貢献実行委員会」を立ち上げ、全校生徒が初めて大会に参加したことです。選手として、ボランティアとして、そして応援者として、それぞれが主体的に役割を果たし、地域行事に参画する貴重な学びの機会となりました。学校教育が地域と連携し、子どもの成長を支える理想の姿がここにあります。

また、元関川村長の平田大六さんは、「初回の関川マラソンの参加者はわずか20名程度であった」と、半世紀の歴史を重ねて続いた本大会の歩みを感慨深く語られました。前日の講演会で谷口さんは、42.195キロのレースに臨む際はスタートからゴールまでの台本を作成していたこと、レース後には毎回A4で5枚に及ぶ反省文を記していたこと、そして体調管理含め事前準備の重要性を強調されていました。その言葉を思い返すと、今回の大会が成功裏に幕を閉じたことも、まさに周到な準備と関係各位の協力と不断の努力の積み重ねであると、改めて実感し納得しています。



<【写真】上：渡邊邸前のスタート風景 下：ランナーに飲み物を差し出すスポ少の子どもたち>